

昭和四年  
九月十八日

## 淺間爆發管内に關する調査

長野 野 測 候 所

今回の噴火による爆音、地震等につき管内各地に照會し左記の項目により調査せる結果は次表の如し。  
調査項目及標準

- 一、噴火時刻 初めて鳴響を聞き、火光を見又は振動を感じたる時刻
- 二、鳴響の回数と其時間
- 三、鳴響の強さ 戸障子振動の程度、鳴響の強さは、烈は戸障子の外れ硝子の破れる程度に強かりしもの、強は熟睡せる人の大部分目覺むる程度のもの、稍強は熟睡せる人の半數位が目覺むる程度、弱は夫れ以下の強さ。
- 四、地震の有無強弱
- 五、降石、降灰
- 六、被害

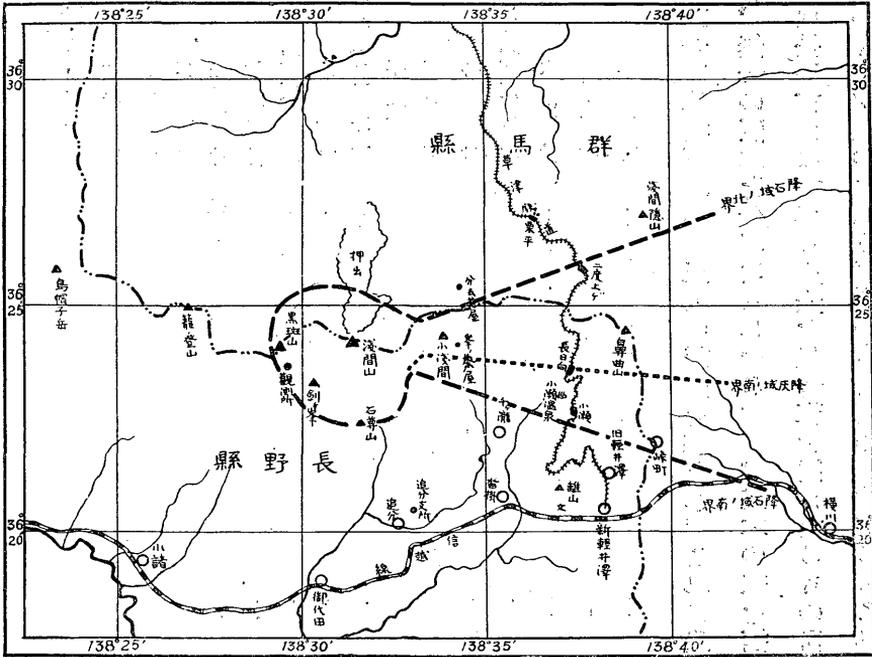
以上の中噴火時刻は回答區々にして主として各地の時計の誤差を表はすのみにして格別の参考となら

ざるより次表には省略せり。調査の結果

地名	鳴響の回数と時間	鳴響の強さと振動の程度	地震	降石灰	被害
南佐久郡川上村	數秒間	弱			
同 南牧村板橋	初め二分間二回目遠雷の如く一分間	稍強			
同 北牧村豊里	數回に切れドドドト約十秒	強	強(弱キ方)		
北佐久郡岩村田町	「ドーン」と聞き後暫く「ゴ」と地鳴を聞く	強(戸障子騒しく動振)	微		
同 春日村	?	強	弱		
同 北御牧村	一回數分間	強(戸障子振動)			
同 輕井澤峠町	大鳴響一回後引續き鳴動三十分	強(戸障子振動)	強		大豆大の降石あり 坪當り四・五粒降 灰なし
小縣郡和田村	一回	強(戸障子振動)	?		
同 同村唐澤	一回	強	強?		
同 西内村	一回十秒間	稍強	微		
同 長窪告町	一回十秒	強(戸障子振動激烈)	極微		
同 別所村	一回一秒	弱(戸障子振動)			
同 上田市	一回凡ソ三秒	稍強	弱		
同 長村	一回	強?			
同 同村菅平	一回	強(戸障子鳴動)	弱		
埴科郡坂城町	?				
同 屋代町		弱			
同 更級郡篠井町					
同 大岡町					



九月十八日淺間山噴火  
岩礫及灰降下區域圖



加減を加へたり。

追分支所より見たる九月十八日の淺間山

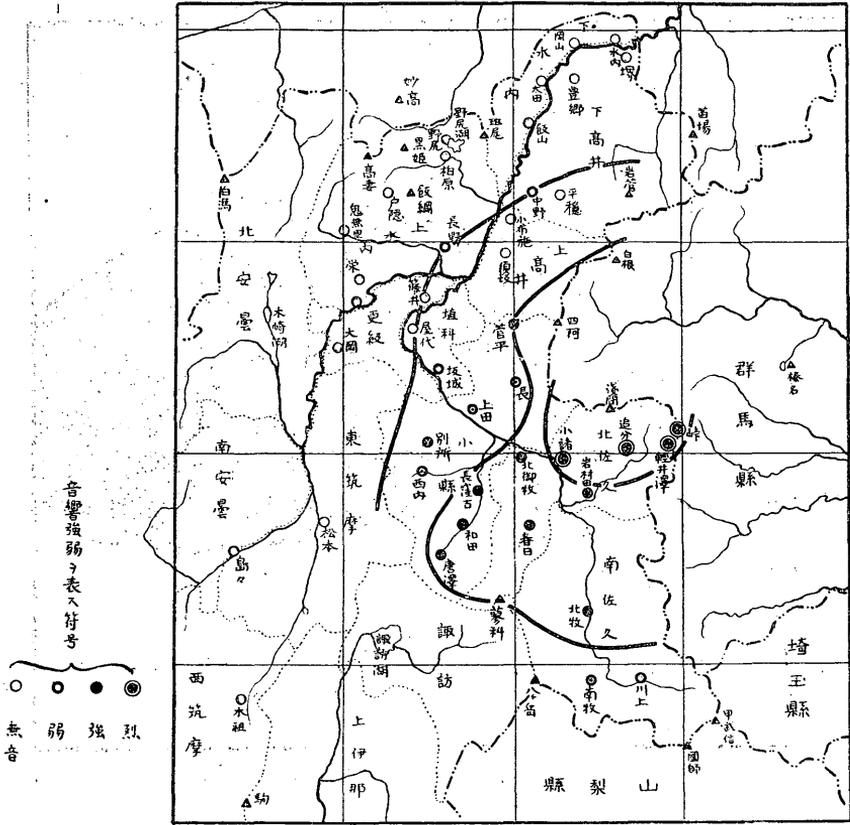
噴火

(追分支所の報告鈔録)

一、噴煙 空氣波動と戸障子等の倒伏激動の燥音に驚き一時九分望見せる時は噴煙は既に高く昇騰し居り漸次東方に傾き更に南寄りとなり、一時十分には其の端支所の正東に迄來たる二時頃には噴煙量殆んど平常に復し二時廿五分には殆んど認め難き迄に減少す。

一、岩石噴出の模様 一時九分望見せる時は山頂は既に熔岩にて埋まり數回の噴出により漸次下方に擴がる西方は劔ヶ峯頂を限りとせるも尙ほこれを越えて遙か下方に落下せる大石三箇あり。南は血の池より三丁許

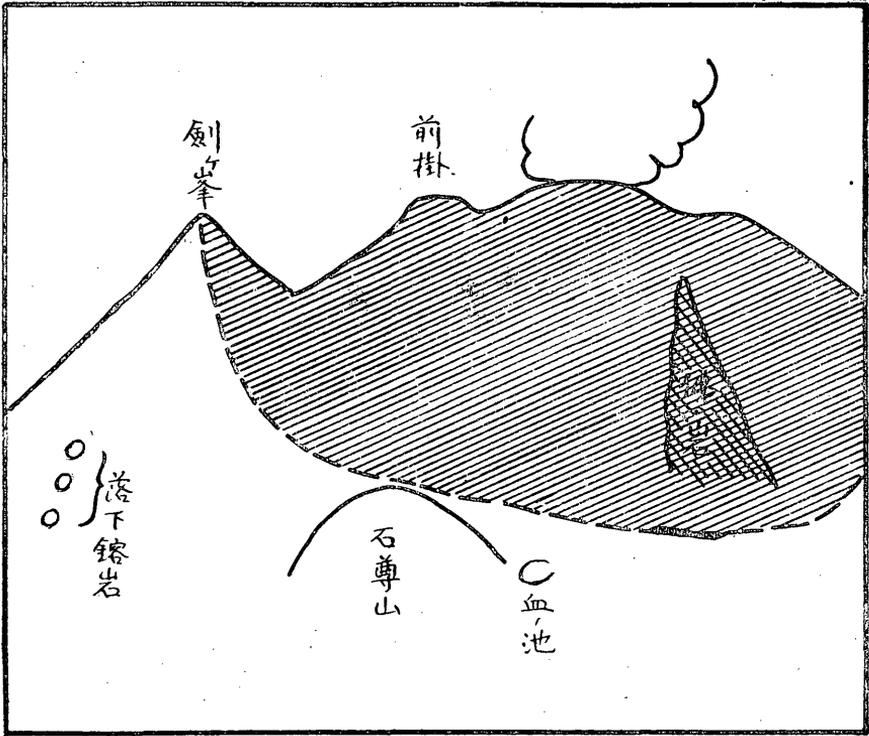
九月十八日淺間山噴火  
音響傳播區域



り上なる防火線迄來たり、  
南東は佛石最下方迄落下す  
東方は降石割合に少きもの  
の如し。

大噴煙中時々小噴火あり  
其の都度鎔岩昇騰し火の柱  
の如き美を呈す其の熔岩は  
殆んど東方火口附近に落下  
し附近一帯は一面に紅を呈  
せり、小噴火の時刻は一時  
十二分同十八分同廿一分同  
廿一分同廿四分等なり。  
一、鳴響 地鳴はなきもの、  
如く噴火と共に空氣波動、  
戸障子の倒伏破損の音と共に

淺間山噴火之際ニ  
追分ヨリ夕タ降石区域



影ヲ附シ夕タ所降石区域

に雑音を生じ一種の物凄さ  
感を呈す、其の後鳴響は繼  
續し其の間「ドン」と云ふ音  
と共に小噴火を起す一時廿  
五分頃には鳴響全く止む。  
一、被害追分地方にては殆ん  
ど各戸に戸障子の倒伏挫折  
等有り追分支所にては硝子  
障子の外れて破損せるもの  
二枚、板戸の破損顛倒せる  
もの一枚、其の他硝子の破  
碎せるもの數十枚に及ぶ。  
降石降灰全くなかりき。